

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 富山市立五福小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒930-0887
富山県富山市五福4431-2
E-mail _____
Website http://www.gofuku-e.tym.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子 192名 女子 208名 合計 400名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「自立と共生」を学校理念として、ESDを重点指導事項と捉え、ESDの実践を通して広い視野で考え、自ら進んで「ひと・もの・こと」に関わり、見通しをもって課題を解決する力の育成を目標とした。

具体的には、生活科、総合的な学習の時間を柱に、①自然・生命・環境に係わる活動、②地域文化に係わる学習、③福祉に係わる学習、④国際理解に係わる学習を行った。

① 自然・生命・環境に係わる活動

5年生は、呉羽丘陵の探検を通して、身近な自然への興味・関心や疑問を抱き、呉羽丘陵について調べたいことを決めてグループ毎に調査活動を行った。また、きんたろう倶楽部やファミリーパークなどの外部講師の方々に教わったり、地域の人と米づくり体験や竹の伐採作業をしたりするなど、呉羽丘陵に関わる人々の思いにも触れた。そして、学校の近くに当たり前のようにあった呉羽丘陵であったが、調査活動や人々との関わりを通して、豊かな自然に愛着をもち、環境を守るために自分たちにできることを考えていった。

② 地域文化に係わる学習

3年生は、自分が「すごい」「すてき」と感じる人を「名人」として、身近な人や町に住んでいる人の中から自分が魅力を感じる人を見付け、調べ、伝える活動を通して、積極的に人と関わり、地域への愛着を深める学習をした。1学期は、五福の大好きなものを見付けるために、家族にインタビューしたり、五福の特色ある施設へ探検に行ったりし、全員でその魅力を共有した。2学期は、夏休みの個々の調べ活動を基に、会いたい人を決めて2回の探検を行った。友達の話や学習発表会での発表を通して、さらに「いろんな人会遇到みたい」「お話を聞きたい」「たくさんの人に伝えたい」という思いをもった。単元の終末には、名人のことを下級生に伝える活動を行った。

③ 福祉に係わる学習

4年生は、富山総合支援学校の友達との交流を経て、校区の保育園の年長児との交流を行い、自分の願いと相手の思いを対比して考えたり、思いやりを広げようと工夫したりして活動した。活動のはじめは、自分のしたいことを優先して活動を考えたり、実際の交流で思いやりの気持ちをもって行動することができない姿も見られたが、活動を通して、体が不自由な子供の思いに寄り添ったり、幼児の言葉にできない願いを感じて関わろうとしたりする姿が見られるようになった。

④ 国際理解に係わる学習

6年生は、「共に生きる」をテーマに世界の状況に目を向け、世界が抱える問題を考える学習を行った。子供たちは、多くの国々が貧困や紛争等の様々な問題にさらされていることを知り、自分たちが当たり前に行っていることができない事実には驚いていた。この状況をよくするために、自分たちにもできることがあるのではないかと考え、世界の困っている人たちを救うための活動について図書室の本やインターネットで調べ、情報や資料を集めた。そして募金活動やエコキャップ回収等のボランティア活動に取り組んだ。



① 竹林整備作業の様子



② 町の名人を訪ねた様子



③ 支援学校との交流の様子



④ エコキャップ回収の様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

「100円からできる国際協力1～6」 「学校にいけないはたらき子供たち」 「ニュースに出てくる国際組織じてん」 「ストリートチルドレンの夢」 等 多数
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校の全教育活動を通して、人格の発達や自律心、判断力、責任感などの人間性を育むとともに、他人・社会・自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる子供を育成する。内容として下記の4つの柱を設定した。

- ①「ほめ言葉・かがやきシャワー」
- ②「夢・志」
- ③ESD の授業研究
- ④地域との連携

また、ESD を各学年の年間指導計画に位置付けた ESD カレンダーを作成し計画的に実施すると共に、授業公開等を通して指導の改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

SDGs の達成に寄与することをねらいとして、各学年のテーマを下記のように設定し、学年の内容に重複がないように配慮した。

3年・・・地域学習&公共交通利用学習 4年・・・支援学校・保育園との交流学习
5年・・・呉羽丘陵の自然探検、里山学習 6年・・・ボランティア・国際理解学習

また、子供たちが充実した活動を行えるように、地域ボランティアを活用したり、地域団体（きんたろう倶楽部やファミリーパーク、富山ユネスコ協会等）に支援を依頼したりしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ESD 実践発表会を年に1回実施し、保護者や地域、教育関係者に ESD の取組を公開している。その際にアンケートを実施して、保護者や地域の方の理解とアドバイスを得ている。また、学校運営協議会でユネスコスクールの取組について共通理解や取組についての助言を得たりしている。本年度は学校の取組を地域に発信することに少し課題が見られたとの指摘を受けた。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

8月26日(土)、「悠久の森2017」において6年生代表児童が呉羽丘陵の自然について発表。

11月24日(金) ESD 実践発表会で全学級授業公開。

1月27日(土) ESD 富山シンポジウムにおいて、6年生代表児童が本校の取組についてプレゼンテーションを行った。シンポジウムでは、県内12校で情報交換をして、互いの取組の様子を知り自分たちの取組に自信を深めたり、新しい視点に気付くことができたりした。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

富山 ESD 講座の一員として、富山市教育委員会が事務局となり、金沢大学の松本謙一教授を委員長として県内14小中高校と情報交換を行っている。

また、北陸 ESD コンソーシアムの富山ブロックに所属している。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

子供の交流は行っていないが、教員は他校の取組の研修に参加するようにしている。

H29 年度(研究会参加) 富山市立寒江小学校 富山市立堀川小学校
高岡市立成美小学校



- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ESD の重点目標として以下の 3 点を重点として取り組んできた。

- ・ 「ひと・もの・こと」との関わり、つながりを尊重する教育の推進
- ・ 主体的に考え行動できる人を育成する教育の推進
- ・ 自尊感情や思いやりなどを育む教育の推進

この結果、地域や仲間との関わりや相互理解が深まり、子供たち一人一人が積極的にコミュニケーションを図ったり、自己有用感をもっていきいきと学習活動に取り組んだりする姿が見られる。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

- | | | | |
|------|-----------------|---------------|---|
| 4 月 | ESD カレンダーの作成 | 「ほめ言葉」研修 | マイボラン活動（6 年） |
| 5 月 | 年長児の運動会招待 | 田植え体験（5 年） | |
| 6 月 | 総合支援学校との交流（4 年） | 地域訪問（3 年） |  |
| 7 月 | 呉羽丘陵探検（5 年） | 地域訪問（3 年） | |
| 9 月 | 呉羽丘陵探検（5 年） | 保育園との交流（4 年） | 国際理解学習（6 年） |
| 10 月 | 稲刈り体験（5 年） | 公共交通利用学習（3 年） |  |
| 11 月 | ESD 実践発表会 | 保育園との交流（4 年） | |
| 12 月 | ESD の歩み作成 | 「ほめ言葉」集会（全校） | |
| 1 月 | ESD シンポジウム | | |
| 2 月 | ESD 研修のまとめ | | |